様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０８２２

研究課題名（和文）中国明清交替期における人事・科挙制度の変革とその継承に関する研究

研究課題名（英文）Study on change of personnel system and civil service examination and it's succession in the Ming-Qing translation

研究代表者
大野　晃嗣（Koji, Ono）

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：５０３９６４１２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、主に三つの点から中国近世人事制度と科挙制度について分析を加えた。一つ目は、科挙制度の学位の一つである「貢生」について、その明代における人事制度の特徴と清代の人事制度への継承関係である。また、二つ目は、清代の「捐納」と「加級」制度が、明末にどの程度の段階まで設計されていたのかについて分析した。三つ目は、清代の科挙名簿の発見を通して、そこから伺える明清時代の科挙慣習について考察した。

研究成果の概要（英文）：In this study, I added analysis about personnel system and the civil service examination mainly from three points in the early modern China.The first is a characteristic of the personnel system about gong sheng 貢生 Degrees in Ming dynasty and it's succession to personnel system of Qing Dynasty. Secondly,I analyzed how much stage juan na "捐納" and jia ji "加級" system of Qing were designed in the closing years of Ming Dynasty.Thirdly, I found in Leiden University one zhu juan 【石朱】巻 which was made in Qing, based on that I considered the custom of the civil service examination in Ming and Qing.

研究分野：人文学

キーワード：近世中国　人事制度　科挙　貢生　【石朱】巻

１．研究開始当初の背景

近世中国における「科挙」が世界史上にどのような意義を有したのかを論じた著作として、「科挙」による高い社会的流動性を解明した何炳棣 *The Ladder of Success in Imperial China*（1962年、寺田隆信・千種真一訳『科挙と近世中国社会』1993年）や、歴史社会学の理論に立脚しつつ、何氏の結論に真っ向から反対し、むしろ社会階層の再生産に寄与したとする Benjamin A. Elman, *A Cultural History of Civil Examinations in Late Imperial China*（2000年）、Elman 氏の手法を援用しつつ文献を博捜した銭茂偉『国家、科挙与社会』（2004年）を挙げることができる。これらの著作、分けても何炳棣氏と Elman 氏の著作は、その論証の根拠を科挙受験者の情報（出身地、年齢、家族構成、受験時の選択科目等）を具体的に記録する「科挙関係名簿」（『会試録』『登科録』『同年齢録』などと呼称される）に求め、これを独自に調査入手するという方法によって重厚な研究を成し遂げた。しかし、これらの研究成果は、科挙が本質的に繋がりを持つ官僚人事制度との関係には踏み込んでおらず、申請者はこれまでも科研費を受けながら、科挙と官僚制度・人事との関係を様々な角度から分析してきた。

このような中、2007年以降、それまで門外不出であった中国寧波の天一閣が所蔵する明代科挙関係名簿から、「進士」合格者の名簿（94種）がまず出版された。そして2010年には、同機関から「郷試録」（「挙人」合格者名簿。277種、9割以上が天下の孤本）が出版され、他の多くの所蔵機関もこれに続いた。これによって科挙受験者の詳細な履歴を定量的に分析することが可能になり、以前にも増して様々な課題を考察可能となった。この結果、中国大陸では科挙学という一分野が提唱され、毎年の国際学会を始め、すでに完全に研究者の間に根付いたものとなっている。

２．研究の目的

一般に、清代の人事制度・科挙制度の特徴と見なされているものは、どの程度明代に準備されていたと考えることができるであろうか。これは、近世中国における財政構造の連続性に関する岩井茂樹の独創的研究（『中国近世財政史の研究』,2004）や、海域アジアを巡る国際秩序の変容に関する岡本隆司の一連の重厚な研究の重要性を考える時、決して見落とすことのできない問題である。特に清朝の国家体制と統治システムが谷井陽子（『八旗制度の研究』,2015）・杉山清彦（『大清帝国の形成と八旗制』,2015）両氏によって、アジア史における最も興味深いテーマとして新しい展開を見せ、清朝を「最後の」征服王朝または中国専制王朝という視点でのみ性格付けすることが不可能になった現在においては、「清朝は明朝から何を受け継いだのか」という問題は、避けて通ることの出来ない問題と思われる。そしてこの問題を考察することを通して、近世中国の社会が、世界史上稀に見る長期的な安定を果たした原因に対して、万人に開かれた官吏登用試験「科挙」と膨大な人員を体系的に序列化した「官僚機構」の側面から迫ることが研究の目的である。

３．研究の方法

先述したような陸続と出版される科挙関係史料を元に、進士に関する履歴のデータベースは既に構築済みであり、挙人に関しても一定程度の物はできあがっている。しかし、明清交替期に社会に大きな影響を与えた生員について、特にその中から毎年一定の割合で中央の国子監に送られた「貢生」に関してはまとまった履歴データが存在しておらず、一度に得られる資料も今のところ見つけられていない。ただ、官僚社会のエリートである「進士」、またそれに準ずる「挙人」学位の取得者と比較し、その上で官僚に任命される学位取得者の全体像を把握するためには、「貢生」を外すことはできない。したがって、『明実録』などの根本史料及び『四庫全書存目叢書』などに残る文集などから、「貢生」の人事に関わる文章を見つけ出し、彼らが直面した人事制度の実態を明らかにし、これまで進士・挙人に対する研究で得た成果と比較する。また、明末に編纂された『度支奏議』や、同時代史料『倪文正公集』『烈皇小識』、そして『国榷』などの編年史料を精読し、それらの中から清代の官僚人事や制度の淵源と見なせそうな議論や政策を抽出する。その上で、上述したような、清朝国家体制論と結びつけて考察する。

４．研究成果

以上のような目的と方法から、以下の諸点を明らかにし、また次に繋げることのできる一つの課題を見いだした。

（１）明末から清初にかけての科挙資格とそれに関わる様々な政策について分析を加えることを目的に、政書類や文集類を読み込んだ。そしてその過程で、明清時代を通じて最も早期に公に売り出された「監生」学位の歴史について俯瞰するとき、同様に国子監在籍の資格であった「貢生」学位について分析を加えることが是非とも必要であると考えるに至った。そこで、未だ十分に明らかでない貢生に対する人事制度を中心に、「貢生」学位というものが明中期以降の官僚社会でどのように見なされていたのか、また進士偏重の風潮の中で、実際の人事上はどのような扱いを受けたのかについて、墓誌銘などの具体的な事例も加えつつ研究を進めた。この中で明らかにできたことの一つは、彼らには、他の学位取得者とは異なり「容姿」という要素が相当に考慮されるということである。もちろん、科挙そのものが儀式的要素を多分に帯びている以上、例えば進士合格者の順位が、その容姿によって入れ替わったという類の逸話には事欠かない。しかし、学位の中では低級に属する「貢生」の任官に対して、「容

姿」が考慮されるということは、完全に埋めることの不可能な学位間の懸隔を、僅かとは言え埋める要素として、また同じ学位内部での差別を付けるために「容姿」が働いていたとも解釈できる。また、このことは容易に清代における「験看」との結びつきを想定させることを指摘した。その上で、この分析について、ライデン大学（オランダ）、ローマ大学（イタリア）、東北大学（日本）の三大学合同のワークショップ（Workshop "Viewing the Body" Japanese and European approaches to concepts of the corporeal 2014 年 3 月、オランダ、ライデンにて開催）において、"The bureaucracy in early-modern China and the judgment by appearances"というタイトルで発表を行った。そしてこの席上、歴史分野の研究者以外にも日本思想史、中国思想史などの研究者から貴重な助言を得ることができた。

（２）一般的に清代の制度と見なされる「捐納」と「加級」について、明代に淵源を持つことを印象論ではなく具体的に明示した。明末捐納制度の最終的な姿を記録する畢自厳「覆訂例款以便開納疏」（『度支奏議』巻一四）などを利用し、

①両殿（文華殿・武英殿）中書（従七品）、運副・提挙（従五品）を頂点とする捐納可能職銜の体系。

②兩殿中書の歴俸者には正五品までの部寺の空銜及び「試職」「実授」も用意。

③俊秀子弟、生員（廩・増・附）、監生毎に規定し、幅広い利用者が想定されている。

④候選者に対して納銀による繰り上げ手続きの販売。「抜選」銀と「即選」銀の存在。

⑤「品級考」は明代から成立しており、これに従って人事を行うことはもとより大前提。

といった諸点を明示した。元より清代の精緻と複雑さをきわめた捐納制度には及ぶべくも無いが、萬暦～崇禎にかけてほぼ恒常化していた「援納」（捐納）によって、清代捐納制度の重要な要素は既に準備されていることは明瞭であろう。また「加級」制度に関しては、「入関前の特質」と「漢地」に広まっていた「勧善」運動の相互影響の可能性、更には「入関前」から既に影響を受けていた可能性を指摘した。

（３）Leiden University(Netherlands)に所蔵されている明清科挙関係の蔵書調査を行うことができ、『道光甲辰恩科　順天郷試硃卷』を発見した。これは 29 冊分もまとまって一箇所に残っているという特徴を備えている。これは咸豐・同治年間に対外事務において大きな役割を果たした崇厚（完顔氏、内務府鑲黄旗満洲の人。崇実の弟。1826－1893）の「硃卷」である 。道光甲辰（道光 24 年、1844 年）、翌道光 25 年に道光帝の皇太后（嘉慶帝の皇后である孝和睿皇后）が七十歳を迎えることを祝って恩科郷試が実施された 。この時、崇厚は十九歳でこの恩科郷試を受験したが、挙人に合格することはできず、「副榜第三十四名」止まりであった 。従ってこの恩科郷試の副榜合格に対して製作されたのがこのライデン大学に所蔵されている『硃卷』である。定説では、硃卷とは科挙合格者が自らの科挙答案を縁故者に配るものとされている。しかし、一箇所に多く残されているということは、「製作したまま（で贈られなかった）」物ということを意味する。このことは彼が後日、挙人に及第するということと関係があるかもしれない。また、管理番号から、恐らくこの「硃卷」は 1937～38 年頃に Leiden University の the Sinological Institute（漢学研究院）に所蔵されるようになったのではないかと推測される。これらのことを含めて考えれば、我々が明清時代の科挙慣習と考えている物には、まだまだ未解明な部分、想像を超えた部分があり、今後明代の硃卷がどのように理由されていたのかを含めて、比較考察をする必要があると考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　３　件）

①大野　晃嗣，明代の会試執事官体制の変遷について－外簾四所の人事とその変革を中心に，『東北大学東洋史論集』第十二巻，査読無し,pp.339～367,2016 年

②大野　晃嗣,関于明代会試考試官的考察－以執事官為中心,『第五届中国古文献与伝統文化国際学術検討会論文集』,査読無し,pp.237～260,2014 年

③大野　晃嗣,関于莱頓大学所蔵《道光甲辰恩科順天郷試硃卷》，『第十一届科挙制与科挙学国際学術検討会論文匯編』,査読無し,pp.188～192,2014 年

〔学会発表〕（計　５　件）

①大野　晃嗣「明朝の政策と清朝によるその継承についての一考察」,東北大学東北アジア研究センター創設 20 周年記念企画国際シンポジウム、 東北アジア:地域研究の新たなパラダイム,仙台国際センター（仙台市）,2015 年 12 月 6 日

②大野　晃嗣　" New light on The Tohoku University Library",How to learn - Nippon/Japan as object, Nippon/Japan as method,Firenze Italiana, 2015 年 10 月 29 日

③大野　晃嗣　"会試執事官に関する考察－外簾四所を中心としてー/ライデン大学所蔵『道光甲辰恩科　順天郷試硃卷』について ",中世フォーラム,京都大学(京都市）,2014 年 11 月 02 日

④大野　晃嗣　"関于明代会試考試官的考察ー以執事官為中心",第五届中国古文献与伝統文化国際学術検討会,中国杭州市,2014 年 10 月 27 日

⑤ 大野　晃嗣　"The bureaucracy in early-modern China and the judgment by appearances", Viewing the Body:Japanese and European approaches to concepts of the corporeal, Leiden　Netherlands, 2014年3月24日

６．研究組織

(1)研究代表者

大野　晃嗣（ONO　KOJI）
東北大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：50396412